

寿町で出会った **年の差 48さいの親友** との交流を描いたルポエッセイ

11月25日発売 「ときどき寿」

著者 / 編集 : xiangyu 出版社 : 小学館

¥1,540(税込) 電子書籍版 ¥1,386(税込)

音楽アーティスト xiangyu (シャンユー) が横浜のドヤ街・寿町へ通い、執筆したノンフィクションルポエッセイ。6年前の夏、寿町の夏祭りに誘われて会場の公園に着くと、どこからともなく杖をついたひとりの爺さんがやってきた。「おう、おめえ見ねえ顔だな。どこのどいつだ?」そう、この爺さんこそが後に私の大親友となる『ヤマさん』。(本文より抜粋) 10代からこの町に住み続けて60年近くになる“ヤマさん(仮名)”の部屋で、年末には「逃げ恥」再放送をイッキ見するほどの親友になった2人。そして、交流を重ねていくうちに、一本筋の通ったヤマさんの生き方に著者は感銘を受けていきます。なかなか知ることのできないこの町での暮らしや住人達の実情、そして町に溶け込むことのできた著者の人となりが見えてくる過去や日常についても描写します。2017年から始めたカジュアルファッショングマガジン『Maybe!』での連載「寿日記」をまとめ、新たに大幅加筆した単行本デビュー作です。



音楽アーティストxiangyuが綴る、横浜の
ドヤ街・寿町に住む“ヤマさん”との6年に及ぶ
友好の記録。令和の実録ルポエッセイが誕生!

xiangyu
シャンユー

Profile

1994年神奈川県横浜市生まれのソロアーティスト。読み方はシャンユー。名前は本名が由来となっている。2018年9月からライブ活動を開始し、南アフリカの新世代ハウスミュージック、GQOM(ゴム)のエスニックなビートと等身大のリリックをベースにした楽曲で関東を中心に勢力的にライブ活動を行なっている。

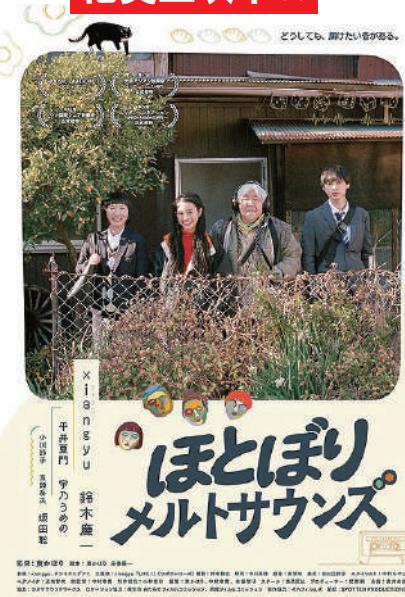
普段の音楽活動は？

2022年7月、「tofu so good / ZARIGANI」をデジタルリリース。楽曲のサウンドプロデューサーは、両楽曲ともGimgigamが担当。「tofu so good」は「豆腐の角に頭ぶつけて死ね」という言葉に数か月の間に2度出会ってしまったことからxiangyuが運命を感じ、作られた楽曲。一方の「ZARIGANI」はレゲエサウンドからジャングルやアラブな雰囲気まで楽しめる夏にぴったりな楽曲で歌詞「zariganiの皮むきまくり」と連呼する独創的な世界観が極まった仕上がりになっている。ジャケットはイラストレーターのnico itoが担当。楽曲のタイトル通りザリガニとトウフが描かれているが、銀の皿に乗った豆腐やその上に立つザリガニの表情はなんとも不思議な世界観を表現している。



絶賛上映中!!

映画に出演



本作のアイディア源となったxiangyuの連載エッセイ「寿日記」をきっかけに制作された映画「ほとぼりメルトサウンズ」では主人公・コトを演じている。この映画はどこか抜けている凸凹な4人の老若男女がまるで家族のように結託し、「音集め」に繰り出す奇妙で愛おしいひと冬の不思議な物語が描かれる。



MOOSIC LAB [JOINT]、大阪アジア映画祭、ソウル国際シニア映画祭(韓国)、ニッポンコネクション(ドイツ)など国内外の映画祭にも続々と選出されている。音楽はxiangyuとケンモチヒデフミ(水曜日のカンパネラ)が担当する。

多方面で活躍中

音楽活動以外にも、ファッショントレーナー半澤慶樹(PERMINUTE)と主宰する川のごみから衣装を創作するプロジェクト“RIVERSIDE STORY”では、渋谷川編と題し2022年9月に恵比寿KATAにて初個展を開催。その後10月に渋谷パルコで開催された「P.O.N.D.」でも展示された。また、ラジオ番組のレギュラーで生中継のリポーターも行っておりファッション、アート、ラジオ、執筆活動など幅広い分野で才能を発揮している。

